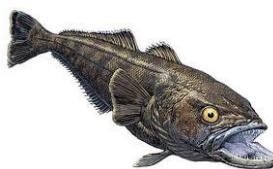


マジエランアイナメ 南東大西洋

Patagonian Toothfish *Dissostichus eleginoides*



SEAFO Stock Status Report

管理・関係機関

南東大西洋漁業機関 (SEAFO)

生物学的特性

- 最大体長・体重：252 cm（全長）・157 kg（全重量）
- 寿命：不明（南極海域では40～50歳程度）
- 性成熟年齢：不明（南極海域では雄6～10歳、雌10～13歳で50%が性成熟する）
- 産卵期・産卵場：不明
- 索餌期・索餌場：不明
- 食性：不明（南極海域では成魚期に魚類、イカ類、甲殻類）
- 捕食者：不明（南極海域では海産哺乳類）

利用・用途

本種は切身(冷凍や解凍)として販売されるほか、みそ漬けや麴漬け等の加工品の原料としても利用されている。

漁業の特徴

本種は、底はえ縄船で漁獲され2種の漁法（Spanish longline system 及び trotline）で操業が行われている。SEAFO条約域における操業域はD海域で3か所漁場がある（West、Discovery及びMeteor）。主漁場はMeteorであるが、年によりWestまたはDiscoveryが卓越する。SEAFO設立（2003年）以降2021年まで底はえ縄船1～3隻が19年間継続して操業している。2021年までに操業を行った国は、日本、韓国、EU（スペイン）及び南アフリカである。

漁獲の動向

2003年に最大漁獲量393トン、次は2011年の208トンで、その他の年の漁獲量は200トン未満で13～198トンで推移している（全期間の平均124トン）。前半（2002～2011年の10年間）の漁獲量は高レベルで年平均169トン、後半（2012～2020年の9年間）は74トンと前半から56%減少した。減少の主な原因是、漁獲努力量（操業隻数）が減少したこと、資源状況の悪化も関係するとみられる。

資源状態

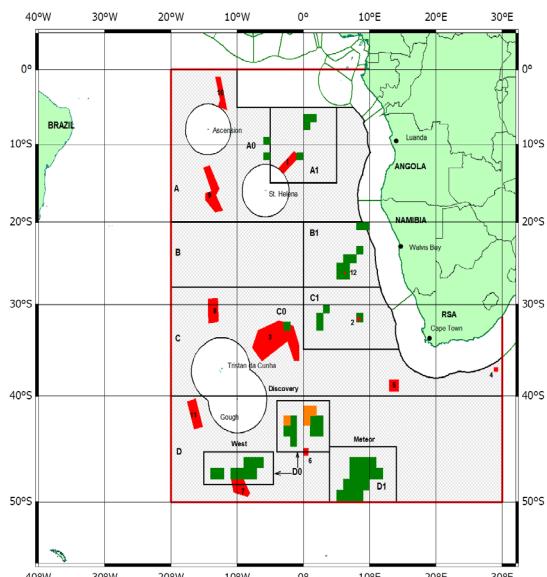
現在までに資源評価が3回実施されたが、使用するデータの期間が短いこと及び標準化CPUEの当てはまりが悪いという理由で合意が得られていない。しかし資源評価の結果は F が F_{MSY} よりかなり低いことを示唆しているため、科学委員会は過剰漁獲の発生はないという見解で意見が一致している。資源動向は最近5年間のCPUEの傾向が減少傾向にあるため減少と判断した。資源水準は、合意された資源評価の結果がないため不明。

管理方策

CM30-15には、底魚漁業、禁漁海域、VMEを含む深海生態保全、開発漁業等の措置・規則が定められている。TAC設定に関し、第12回年次会合（2015年）において科学委員会で合意された資源評価結果が無い場合、HCRでTACを決定することが合意されている。最新のTAC（2022～2023年）は、D海域261トンが2021年の第18回年次会合で採択された（CM-TAC-01-2021）。その他の管理方策には、CM04-06（サメ類保全）、CM14-09（海亀類保全）、CM25-12（海鳥類保全）等がある。

マジエランアイナメ（南東大西洋 SEAFO 条約海域）の資源の現況（要約表）

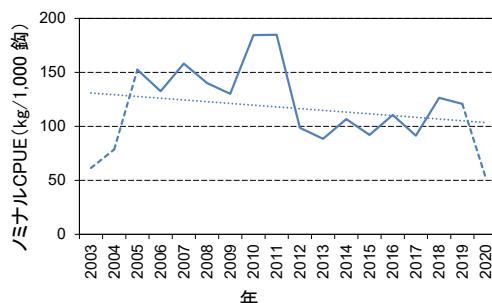
資源水準	不明
資源動向	減少
世界の漁獲量 (最近5年間)	13~162トン 最近(2020)年:64トン 平均:72トン(2016~2020年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	6~65トン 最近(2020)年:6トン 平均:40トン(2016~2020年)
管理目標	HCRに基づくTAC(2022~2023年) (D海域:261トン、その他の海域0トン)
資源評価の方法	-
資源の状態	不明
管理措置	CM30-15(底魚漁業、禁漁海域、VMEを含む深海生態保全、開発漁業等の規則)、CM-TAC-01-2021(D海域における2022~2023年TAC:261トン)、CM04-06(サメ類保全措置)、CM14-09(海亀類保全措置)、CM25-12(海鳥類保全措置)等。
最新の資源評価年	2013~2014年(結果の合意なし)
次回の資源評価年	未定



SEAFO条約海域(網目海域)とマジエランアイナメの主漁場
(D海域のWest、Discovery及びMeteor)

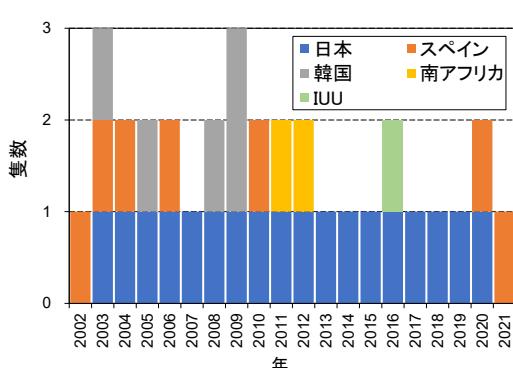
A~Dは統計海域。緑は既存漁場(全漁法)。赤は禁漁海域(但し、海域12は着底トロールのみ禁漁)。

オレンジは開発漁業で既存漁場に変更された漁場(但し、底はえ縄漁業のみ)。その他の海域は、新漁場。



SEAFO(D海域)におけるマジエランアイナメ漁況の推移
(2003~2020年)

(注) おおよその漁況をノミナルCPUE(kg/1,000鈎)で代用した。ノミナルCPUEをより客観的に表示するため、毎年連続したデータがあり漁獲効率(q: catchability)が同質の日本のデータを使用した。2003~2004年のノミナルCPUEが低いのは、操業初期において漁場を模索しながらの操業で見かけ上低いとみられるため点線で表示した。また、2020年から操業船が代わり、初操業で慣れないこと及び操業数が僅か24回(以前の平均は167回でその14%)なため安定したCPUEが得られず、見かけ上低い値と考えられるため点線で表示した。点線部分を除いた2004~2019年の漁況(ノミナルCPUE)は徐々の悪化(減少)傾向を示している。



SEAFO(D海域)におけるマジエランアイナメ年別・国別漁獲量・TAC(トン)の推移(2002~2020年)